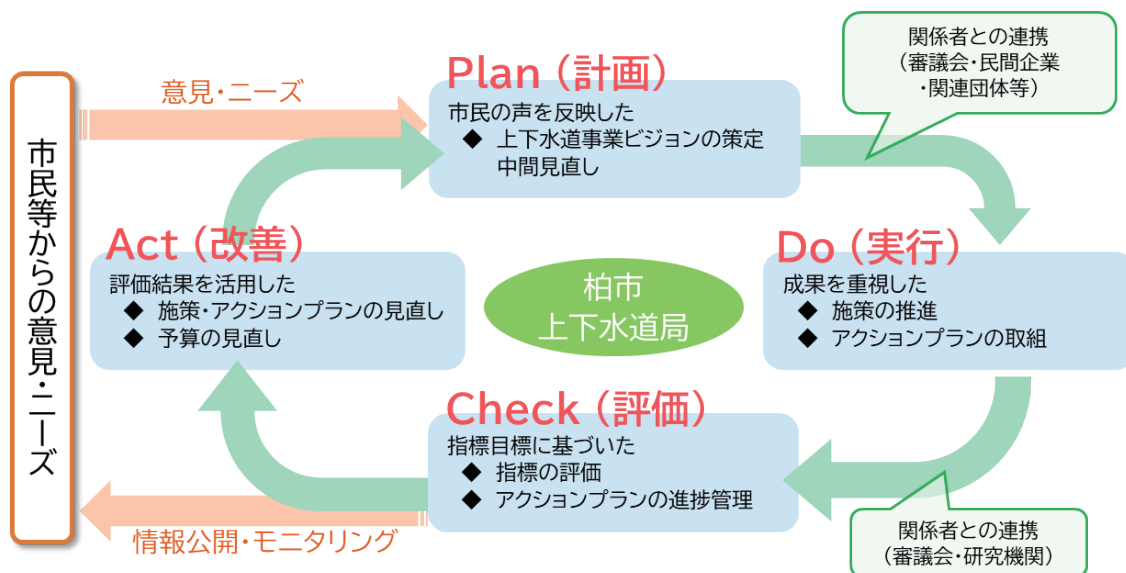


本ビジョンは、「強靱な 水インフラを 未来の柏へ」の理念のもと、強靱化・持続・水質・水循環を基本方針に掲げ、10個の施策を設定しています。

本ビジョンで掲げた取組を確実に効率的に推進していくために、年次計画や指標目標と照らし合わせながら、定期的に進捗状況を把握し、評価及び見直しを実施します。

進捗状況や評価結果については、上下水道事業運営審議会に報告するとともに、市民の皆様にも情報を公開し、ご意見をいただきながら計画の改善に反映していきます。

また、地域の民間企業や関係団体、研究機関などとの連携を強化し、進捗管理や評価・見直しの実践を通じて、取組の一層の充実と高度化を図ります。



本ビジョンは、継続的な進捗管理と評価を行い、計画の中間年度である令和12年度には計画の評価・見直しを行い、最終年度である令和17年度には計画の総合評価を実施し、次期ビジョンに反映します。また、各施策のアクションプランについて見直しの必要が生じた場合には、時期に捉われず、進捗管理と評価を行う中で、適宜改善していきます。

施策やアクションプランの進捗状況については、ホームページ等で随時公表し、地域住民の皆様からの意見やニーズも取り入れた進捗管理と評価・見直しを実践していきます。

評価指標一覧(1/2)

施策	区分	アクションプラン	重要度	指標	単位	式	R6実績	5年後目標	10年後目標
老朽化対策	水道	老朽管更新(ウォーターPPPを含む)	1	基幹管路の事故割合	件/100km	$(\text{基幹管路の事故件数} / \text{基幹管路延長}) \times 100$	0.0	0.0	0.0
			1	管路の事故割合	件/100km	$(\text{管路の事故件数} / \text{管路延長}) \times 100$	0.6	0.6	0.6
			1	非鉄製管路の事故割合	件/100km	$(\text{非鉄製管路の事故件数} / \text{非鉄製管路延長}) \times 100$	4.9	3.9	3.9
			3	法定耐用年数超過管路率	%	$(\text{法定耐用年数を超過している管路延長} / \text{管路延長}) \times 100$	14.2	25.9	35.7
			2	管路更新延長	%	$(\text{更新された管路延長} / \text{管路延長}) \times 100$	8.3	45.4	83.5
		老朽設備の補修・更新	2	法定耐用年数超過浄水施設率	%	$(\text{法定耐用年数を超過している浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	0.0	0.0	0.0
			3	法定耐用年数超過設備率	%	$(\text{経年化年数を超過している電気・機械設備数} / \text{電気・機械設備の総数}) \times 100$	62.4	62.4	62.4
			4	(継続して実施)	-	-	-	-	-
	下水道	管さよ、施設の修繕・改築、維持管理(ウォーターPPPIにより実施)	1	道路陥没箇所数	箇所	-	11	7	7
			1	詰まり発生件数	件	-	34	31	31
			1	苦情件数	件	-	46	67	67
			2	管路調査実施延長	km	-	1,098.6	1,290.6	1,594.2
			2	管路更新延長	km	-	5.5	37.3	51.0
			耐震化対策	水道	基幹管路の耐震化(ウォーターPPPによりさらに推進)、管路の耐震化(重要給水施設管路を含む)	1	基幹管路の耐震適合率	%	$(\text{基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長} / \text{基幹管路延長}) \times 100$
3	基幹管路の耐震管率	%				$(\text{基幹管路のうち耐震管延長} / \text{基幹管路延長}) \times 100$	43.9	52.6	61.3
2	基幹管路の耐震化(更新)延長	km				-	25.2	30.1	35.1
1	管路の耐震適合率	%				$(\text{耐震適合性のある管路延長} / \text{管路延長}) \times 100$	52.6	56.5	59.1
3	管路の耐震管率	%				$(\text{耐震管延長} / \text{管路総延長}) \times 100$	36.3	40.2	42.7
2	管路の耐震化(更新)延長	km				-	534.9	592.5	630.6
3	重要施設接続管の耐震管率(上下一体分)	%			$(\text{重要施設接続管のうち耐震管延長} / \text{重要施設接続管延長}) \times 100$	50.0	66.0	66.0	
水源施設・設備の耐震化	1	浄水施設の耐震化率		%	$(\text{耐震対策の施された浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	24.2	24.2	70.2	
	2	浄水施設の主要構造物耐震化率		%	$(\text{耐震対策の施された浄水施設の主要構造物の浄水施設能力} / \text{全浄水施設能力}) \times 100$	74.9	85.6	100	
	2	配水池の耐震化率		%	$(\text{耐震対策の施された配水池容量} / \text{配水池総容量}) \times 100$	88.2	93.5	100	
3	急所施設の耐震化率(上下一体分)	%		$(\text{耐震対策の施された急所施設数} / \text{急所施設数}) \times 100$	42.6	43.9	57.1		
下水道	重要な幹線等の耐震化	1		重要な幹線等の耐震化率	%	$(\text{重要な幹線等の耐震管延長} / \text{重要な幹線等の管路延長}) \times 100$	31.9	43.2	61.0
		2		重要な幹線等の耐震化延長	km	-	62.1	83.5	118.1
		3		重要施設接続管の耐震化率(上下一体分)	%	$(\text{重要施設接続管のうち耐震管延長} / \text{重要施設接続管延長}) \times 100$	21.0	53.0	100.0
	1,2	篠籠田貯留場・柏ヒレ排水ポンプ場の耐震化	%	$(\text{完了主要工程} / \text{全体工程}) \times 100$	8.5	35.0	73.5		
雨水(浸水)対策	下水道	浸水対策の継続、雨水管理総合計画に基づく雨水管や貯留施設等の整備の実施	1	面整備の整備率	%	$(\text{雨水整備済み面積} / \text{下水道雨水事業計画面積}) \times 100$	42.7	44.5	46.2
			2	雨水幹線の整備延長	km	-	39.9	42.9	45.4
		4	(雨水管理総合計画の策定)	-	-	-	-	-	
防災・減災体制の強化	一体	応急給水訓練の実施と職員研修の継続、応急給水関連設備の維持管理と点検	2	応急給水訓練の実施回数	回/年	-	上下水道局開催3回 地域開催要請分4回	3+α	3+α
			3	給水車の運転可能職員割合	%	$(\text{給水車の運転可能職員数} / \text{職員数}) \times 100$	68	-	-
			2	非常用給水栓の設置数	基/年	-	教育委員会設置2基 上下水道局依頼2基	2+α	2+α
		4	(BCPの策定・定期的な見直し)	-	-	-	-	-	
		4	(継続して実施)	-	-	-	-	-	
		3	備蓄資機材の管理	袋	-	180,000	-	-	
	下水道	内水ハザードマップの更新、管路内水位観測システムの維持	4	(更新、維持管理の実施)	-	-	-	-	

評価指標一覧(2/2)

施策	区分	アクションプラン	重要度	指標	単位	式	R6実績	5年後目標	10年後目標
経営基盤の強化	一体	DX推進・新技術の活用	2	メンテナンス技術に関するDX導入数	件	-	0	1	1
		官民連携の拡大(ウォーター-PPPの導入)	4	(W-PPPの導入)	-	-	-	-	-
		技術力の確保	3	業務経験年数	年/人	職員の水道業務経験年数/全職員数	6.5	-	-
	水道	財政計画の適正管理	1	料金回収率	%	(供給単価/給水原価)×100	125.41	100	100
			2	経常収支比率	%	(営業収益 + 営業外収益)/(営業費用 + 営業外費用)×100	123.55	100	100
			3	料金改定検討及び報告回数	回	-	0	-	-
			3	内部留保資金	億円	-	84	-	-
			3	企業債元利償還金対料金収入比率	%	(企業債元利償還金/料金収入)×100	4.9	-	-
			4	(審議会の開催)	-	-	-	-	-
		広域化への取組	4	(勉強会、連携検討等の継続)	-	-	-	-	-
	下水道	財政計画の適正管理	1	経費回収率	%	(使用料収入/汚水処理費)×100	100.27	100	100
			2	経常収支比率	%	(営業収益 + 営業外収益)/(営業費用 + 営業外費用)×100	105.81	100	100
			3	使用料改定検討及び報告回数	回	-	0	-	-
			3	内部留保資金	億円	-	60	-	-
3			企業債元利償還金対料金収入比率	%	(企業債元利償還金/使用料収入)×100	56.2	-	-	
4			(審議会の開催)	-	-	-	-	-	
利用者サービス・広報の充実	一体	広報活動	4	(継続して実施)	-	-	-	-	
		支払方法の拡充	3	支払方法別割合	%	-	口座払 63.8% 集金委託払 0.2% 納付書払 36.0%	-	-
			3	収納率	%	(料金納入額/調定額)×100	水道 90.4% 下水道 89.8%	-	-
省エネルギー・創エネルギーの推進	一体	省エネルギーの導入と創エネルギーの活用	2	電動車導入比率	%	(電動車両数 / 公用車総数)×100	16.7	66.7	100
	水道	省エネ機器導入	2	配水量1㎡当たりの電力消費量	kWh/㎡	電力使用量の合計/年間配水量	0.16	0.15	0.14
		建設副産物の再資源化	4	(継続して実施)	-	-	-	-	-
	下水道	省エネ機器導入	3	省エネ機器導入数	件	省エネ機器を導入した工事単位での件数	0	-	-
		下水熱利用の事例調査・研究	4	(継続して実施)	-	-	-	-	-
		建設副産物の再資源化	4	(継続して実施)	-	-	-	-	-
水質の適正管理	水道	水安全計画の運用	1	水質事故発生件数	件	-	0	0	0
			2	水安全計画の点検・評価	回/年	-	1	1	1
		水質監視の維持	3	総トリハロメタン濃度水質基準比	%	$X_i = \text{定期検査時の総トリハロメタン濃度水質基準比率}$ $\max(X_i) = ((\text{給水栓の総トリハロメタン濃度} / \text{給水栓数}) / \text{水質基準値}) \times 100$	31.2	-	-
		配水管の洗浄作業	4	(洗浄作業の継続実施)	-	-	-	-	-
		鉛製給水管の解消	4	(老朽管改良工事に合わせた取替実施)	-	-	-	-	-
		小規模貯水槽水道の適正管理	4	(注意喚起の継続)	-	-	-	-	-
適切な水源保全の推進	水道	水源井戸の維持管理	3	井戸の内部調査実施数	回	-	0	-	-
		適正揚水量の管理	4	(継続して実施)	-	-	-	-	-
合流区域の解消	下水道	合流区域の分流化	4	(合流区域の分流化の実施)	-	-	-	-	

用語集

用語	説明	初出 ページ
あ		
アセットマネジメント4D	アセットマネジメントの実施レベル区分のうち、詳細型とされるもののこと。タイプ4は更新需要見通しの検討において、将来の水道施設の再構築やダウンサイジングといった事項を考慮したもの、タイプDは財政収支見通しの検討において、水需要の変動、物価変動、経営効率化による効果といった事項を考慮したものとされており、これらを合わせてタイプ4Dと呼称しています。	68
一般会計	地方自治体の会計は、全体を網羅して通観できるよう、単一の会計で経理することが原則となっています(単一会計主義)。この原則に基づき、行政の一般的な収支を一つの会計で経理するものを一般会計といいます。ただし、この例外として特定の事業(下水道事業、介護保険事業等)における会計は、個々の事業の運用状況を明確にするため、一般会計とは区分して経理しています。これを特別会計といいます。	148
雨水管理総合計画	近年激甚化している気候変動の影響を踏まえた、下水道による浸水対策を実施すべき区域や対策目標、施設整備の方針等の基本的な事項を定めた計画のこと。下水道による浸水対策の方向性を決める計画です。	56
江戸川左岸流域下水道	江戸川左岸流域(市川市、浦安市、松戸市、流山市、野田市、柏市、船橋市及び鎌ヶ谷市)の汚水を処理することを目的とした下水道のこと。千葉県が管理・運営しています。	13
応急給水	地震、濁水および施設事故などにより水道による給水が不可能となった場合に、避難所などの応急給水拠点において、給水車や仮設給水タンクなどにより応急的に給水すること。	19
オゾン処理	オゾンの酸化力により、細菌やウイルスの不活化、色度の除去、異臭味の除去、有機物の酸化分解、促進酸化(過酸化水素と併用)などが期待できる処理のこと。高度浄水処理の方式の一つです。	8
汚濁負荷	水質の汚濁の原因となる汚濁物質のこと。下水道における汚濁物質として主に有機物、窒素、リンがあげられます。	60

用語	説明	初出 ページ
か		
開発水量	新たな工場や商業施設、大規模集合住宅の新築や大規模造成等により増加する水量のこと。将来の水需要はこれまでの水量の変動実績から予測しますが、開発水量はこれとは別に水量の増加分として見込みます。	23
拡張事業	まだ水道の給水が為されていない地域へ給水を開始するために必要となる水源地施設の能力増強や管路整備等の事業のこと。	6
簡易水道	計画給水人口が100人を超え5,000人以下の水道のこと。	7
基幹管路	水道システム上特に重要な管路のこと。導水管、送水管、配水本管(給水の取出しを行わないφ400以上の管路)をいいます。	28
企業債残高対給水収益比率	給水収益に対する企業債残高の割合のこと。企業債残高の規模を表す指標です。	47
基準外繰入金	一般会計からの繰入金のうち、国が認めた基準に該当しない繰入金のこと。国が認めた基準に該当する、基準内繰入金は雨水事業や公的便益が認められる汚水事業にかかる費用に充てられる一方で、基準外繰入金は使用料収入の不足分に充当されます。	62
北千葉広域水道企業団	企業団とは、複数の地方公営企業の事務を共同処理するために設置された一部事務組合を指します。北千葉広域水道企業団は、千葉県、松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、習志野市及び八千代市の1県7市の水道事業体に水道水を供給する企業団(用水供給事業体)です。	7
基本計画 (全体計画)	将来的に下水道を整備する区域も含めた全体的な下水道計画のこと。完成目標年次、目標年次における計画人口、計画汚水量、管きよ・ポンプ場等の施設計画などが定められています。	13
給水区域	水道事業者が厚生労働省または都道府県の認可を得て給水義務を負う区域のこと。	7
給水原価	水道水を1m ³ 作るのに必要とする経費のこと。	47
給水人口	給水区域内に居住し、水道により給水を受けている人口のこと。給水区域外からの通勤者や観光客は給水人口には含みません。	7

用語	説明	初出 ページ
業務指標(PI) (Performance Indicator)	公益社団法人日本水道協会が2005年1月に定めた規格である「水道事業ガイドライン」における業務指標のこと。137項目からなり、水道事業の多岐にわたる業務を統一した基準で数値化することにより、利用者への情報開示、透明性の高い事業経営及び説明責任を客観的に示す手段として活用されることを目的としています。	37
緊急遮断弁	地震や管路の破裂などの異状を検知するとロックやクラッチが解除され、自動的に自重や重錘または油圧や圧縮空気を利用して緊急閉止できる機能を持ったバルブのこと。	101
経営比較分析表	経営及び施設の状態を表す経営指標を活用して、経年比較や同規模団体との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行ったもののこと。毎年、公表されます。	37
計画一日最大給水量	水需要予測を基に定めた、将来の一日における最大の給水量のこと。季節変動や人口増加、生活様式の変化などを考慮し、統計データや予測に基づいて設定され、水道施設の規模を決定する際に用いられるため、水道計画の基本となる重要な指標です。	6
計画給水人口	計画目標年次の推定人口のうち給水対象となる人口のこと。	6
計画人口	計画区域内の人口のこと。下水道事業においては、全体計画区域内の人口を指します。	13
計画面積	下水道による汚水処理を見込んでいる地域(計画区域)の面積のこと。	13
経常収支比率	当該年度において、給水収益(水道)・使用料収入(下水道)や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄っているかを表す指標のこと。	47
経費回収率	汚水処理にかかる費用のうち、下水道使用料で回収できている割合のこと。100%を下回っている場合、汚水処理にかかる費用が下水道使用料で賄いきれないことを意味しています。	62
下水道処理人口	下水道接続区域内の人口のこと。	17
下水道総合地震対策計画	耐震性能を有していない下水道施設に対して、防災減災両面からの対策を総合的かつ効率的に行い、被害の最小化を図ることを目的とした計画のこと。一般的に計画期間は5年とし、計画期間内で行う耐震化の方針、対象施設、対策方法、事業費等について定めています。	49

用語	説明	初出 ページ
減価償却費	管きょ等の施設(資産)を取得するために要した費用を、その耐用年数で除して1年ごとに配分した費用のこと。	133
原水	水道水源から取水した浄水処理前の水のこと。水道原水には大別して地表水と地下水があり、地表水には河川水、湖沼水、貯水池水が、地下水には伏流水、井水などがあります。	43
広域化	水道事業や水道施設、水道事業の一部業務を地域内の複数の水道事業でまとめること。広域化を行うことにより、一般的に業務の効率化や水資源の有効活用、水道施設への重複投資を避けることによって給水の安定化と財政基盤の強化が図られます。	71
公共用水域	河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域と、これに接続する公共溝渠、かんがい用水路その他公共の用に供される水路のこと。	57
高度浄水処理	通常の浄水処理では十分に対応できない臭気物質、トリハロメタン前駆物質、色度、アンモニア態窒素、陰イオン界面活性剤などの処理を目的として、通常の浄水処理に追加して導入する処理のこと。代表的な高度浄水処理の方法としては、オゾン処理、活性炭処理、生物処理及びストリッピング処理(揮散処理)があり、処理対象物質などによってこれらの処理方法が単独またはいくつかの組み合わせで用いられています。北千葉広域水道企業団の高度浄水処理は、通常の浄水処理にオゾン処理(下降管方式)と生物活性炭処理を組み合わせた処理方式です。	8
合流区域	合流式下水道が整備されている地域のこと。合流式下水道とは汚水と雨水を一つの管きょに流す下水道のことで、汚水と雨水を別々の管きょに流す分流式下水道に比べて、管理が容易な一方で、雨水が多くなると処理しきれない汚水を河川等に放流する可能性があります。柏市では、初期に整備された柏駅周辺が合流式下水道で整備されており、雨天時の汚水放流を避けるために篠籠田貯留場を活用しています。	18
湖沼水質保全計画	より一層の水質改善を目的に、総合的な水質保全対策の推進を図るための計画のこと。	60

用語	説明	初出 ページ
さ		
残留塩素	殺菌・消毒のために塩素処理した後、なお水道水中に残っている酸化力を有する塩素(有効塩素)のこと。遊離残留塩素と結合残留塩素があります。日本では水道法により、水道水の消毒を行い給水栓で残留塩素0.1mg/L(結合残留塩素では0.4mg/L)以上、病原生物による汚染のおそれがある場合は0.2mg/L(結合残留塩素1.5mg/L)以上保持するように塩素消毒をすることが義務づけられています。快適水質項目の目標値は「1mg/L 以下」です。	43
事業計画 (下水道)	下水道法第4条に定められた計画であり、全体計画に定められた施設のうち、5年から7年間で実施する予定の施設の配置等を定める計画のこと。	17
施設利用率	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合のこと。施設の利用状況や適正規模を判断する指標です。	48
重要な幹線等	ポンプ場や処理場に直結する幹線管路や河川・軌道等を横断する管路で、地震被害によって二次災害を誘発するおそれがある管路のこと。	49
受水	水道事業者が、水道用水供給事業から浄水(水道用水)の供給を受けること。柏市は、北千葉広域水道企業団から受水しています。	7
受変電設備	受電設備とは電力会社などから特別高圧または高圧で電気を受電する設備のこと。変電設備とは必要とする電圧に変電する設備のこと。	85
しゅんせつ	河川や水路の底の土砂を取り除く作業のこと。	60
小規模貯水槽 水道	受水槽に水道水を受け、受水槽から各利用者へ給水する施設のこと。受水槽の容量が10m ³ を下回るものが該当します。受水槽とは建物内の給水設備に供給する水を一度貯留する目的で設置するタンクのことです。	123
浄水施設	水源から取水した原水を浄水処理する施設のこと。浄水は水道法に定められた水質基準に適合した水でなければなりません。	37
浄水	水源から取水した原水を浄水場で浄水処理した清浄な水のこと。浄水は水道法に定められた水質基準に適合した水でなければなりません。	43

用語	説明	初出 ページ
水源地	地下水に対して浄水処理を行い、安全な水を造る水道施設のこと。浄水処理の他に用水供給事業からの受水や水道水の貯留、ポンプによる加圧を行う施設でもあります。	6
水洗化人口	下水道処理人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口のこと。	15
ストックマネジメント計画	下水道事業が抱える大量のストック(施設)を長期的な視点で計画的、かつ効率的に管理していくための手法のこと。明確な目標を定め、施設の状態を客観的に把握、評価し、長期的な施設の状態を予測しながら点検・調査、修繕・改築を一体的に捉えて管理を行います。	50
生物活性炭処理	粒状活性炭処理の一つで、運転の継続とともに活性炭層に微生物が増殖している状態のこと(BACと略記します)。吸着だけでなく、生物による処理効果により、アンモニア態窒素や生物分解性の有機物の除去も期待できます。	8
全窒素	水中に存在するいろいろな形態の窒素化合物の全体のこと。無機性窒素と有機性窒素に分類されます。窒素(N)は、動植物の生育にとって必須の元素であるため、肥料や排水などに含まれる窒素が湖沼などに流入すると、富栄養化の原因となります。	58
専用水道	寄宿舍、社宅、療養所等における自家用の水道その他水道事業の用に供する水道以外の水道で、100人を超える者にその居住に必要な水を供給するもの、もしくは、その水道施設の一日最大給水量が飲用その他生活の用に供することを目的とする水量が20m ³ を超えるものこと。	23
全リン	水中に存在するリン酸イオン、ポリリン酸類、動物質あるいは植物質としての有機化合物などの各種の形態のリン化合物の全体のことをいい、無機性リンと有機性リンに分類されます。リンは、窒素と並んで動植物の生育にとって必須の元素であるため、肥料や排水などに含まれるリンが湖沼などに流入すると、富栄養化の原因となります。	58
送水管	浄水場から配水池等の配水施設まで浄水を送る管のこと。	28
た		
ダウンサイジング	将来の水需要の変動を踏まえ、現在利用している水道施設の規模の縮小を図ること。規模の縮小を図ることで、更新需要の低減、維持管理費の低減などが期待できます。	24

用語	説明	初出 ページ
単独公共下水道	主として市街地における下水を排除または処理するために地方公共団体(主に市町村)が単独で管理する下水道で、終末処理場を有するもののこと。	13
長期前受金戻入	管きよ等の施設(資産)を取得または改良する際に交付された補助金を、減価償却費に見合う分収益化したもののこと。	133
手賀沼流域下水道	手賀沼流域(松戸市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、印西市及び白井市)の汚水を処理することを目的とした下水道のこと。千葉県が管理・運営しています。	13
電動車	モーターを動力源として走行できる車両のこと。ガソリン車と比べ排気ガスが発生せず環境へ与える影響を小さくできます。しかしながら、停電の際には充電が行えなくなる欠点もあるためガソリン車との適切な比率で配備することが望まれます。EVはElectric Vehicle(電動車)、HEVはHybrid Electric Vehicle(ハイブリッド車)、PHEVはPlug-in Hybrid Electric Vehicle(プラグインハイブリッド車)の略称です。	70
導水管	取水施設から浄水場まで原水を送る管のこと。	28
特定公共下水道	工業団地等の特定の事業者の事業活動に主として利用される公共下水道のこと。	13
な		
内水氾濫	雨水が排水施設で川に排水できずに、宅地などにあふれること。一時的に大量の降雨が生じた場合などに、下水道等の排水施設で雨水を排水できずに宅地や道路、農地などにあふれる場合と、水路や支川などが合流する先の河川の水位が上昇したことにより、支川から合流先の河川に水が流下できなくなり、支川などから水があふれる場合があります。	56
鉛製給水管	鉛でできた給水管のこと。サビが発生せず、軟らかく加工が容易なことから過去に使用されてきましたが、現在は新たな給水管には使用されていません。鉛には蓄積性があり中毒症状を起こすとされており、長時間水道水が滞留していると、水道水中に鉛が溶け出す恐れがあります。そのため、鉛製給水管の解消が望ましいとされています。	45
は		
配水池	給水区域において必要とされる水量に応じて適切な配水を行うために、浄水を一時的に蓄える池のこと。	7

用語	説明	初出 ページ
配水管	配水池等の配水施設から使用者が管理する給水装置まで浄水を送水する配管のこと。	12
配水本管	柏市ではφ400以上の比較的口径が大きな配水管のことを指します。口径が大きいため流量が多く、市内の配水管網の基幹となる管路です。	12
プロポーザル	技術力・実績・事業実施体制などを示した提案書の提出を求め、客観的な評価に基づき発注先を決定する手法のこと。価格競争ではなく各社のノウハウから事業者を選定することができるかとされています。高度なスキルや専門的なノウハウを伴う業務を外部に委託する際に使われる発注方式です。	67
分水量	水道事業の給水区域外へ給水している水量のこと。隣接した区域への暫定供給などが該当します。柏市では他事業体の区域へ分水を行っている一方で他事業体から分水を受けている区域もあります。	23
平準化	上下水道施設の更新見通しに際して、資産を取得した順に更新を行うと取得時期が同時期の資産の更新が重なり膨大な更新需要が一時に必要となります。このため資産の更新時期を資産の重要度や優先度を基に前倒しや後送りし更新需要をならすことです。	50
包括的民間委託	公共施設の管理・運営を受託した民間事業者が創意工夫やノウハウの活用により効率的・効果的に実施できるよう、複数の業務や施設を包括的に委託すること。	50
ま		
未普及地域	下水道計画区域内で、下水道による汚水処理がされていない地域のこと。汲み取り式便所や単独・合併浄化槽が設置されています。	22
面源汚濁負荷量	特定の汚染源から発生する汚濁負荷量ではなく、市街地・農地・森林等、面的に広がったエリアから発生する汚濁負荷量のこと。汚濁負荷の原因となる具体例としては、自動車排出ガスに含まれる粉じん・落葉・肥料・ゴミ等があげられる。	60
や		
有収水量	水道料金・下水道使用料の賦課対象となる水量のこと。	15
有収率	施設の稼動が収益につながっているかを判断する指標のこと。	48

用語	説明	初出 ページ
ら		
流動比率	短期的な債務(1年以内)に対する支払能力を表す指標のこと。	47
料金回収率	給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合のこと。100%を下回っている場合、給水にかかる費用が料金収入以外の収入で賄われていることを意味します。	47
累積欠損金	営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失のこと。	62
漏水	水道管等から水が漏れること。地上に漏れ出して発見が容易な地上漏水と、地下に浸透して発見が困難な地下漏水があります。漏水量が減ると有効率が向上します。	80
アルファベット		
BOD	BODはBiochemicalOxygenDemand(生物化学的酸素要求量)の略称で、CODとともに有機物による水質汚濁の程度を示すものです。有機物などが微生物によって酸化、分解される時に消費する酸素の量を濃度で表した値をいいます。数値が大きくなる程汚濁が著しいことを示します。なお、環境基準に適合しているかの評価は75%値を用います。75%値とは、1年間で測定された当該項目の全データ(n個とします)を数値の小さいものから順に並べたとき、75%目(n×0.75番目)に該当する値のことです。	59
COD	CODはChemicalOxygenDemand(化学的酸素要求量)の略称で、BODとともに有機物などによる水質汚濁の程度を示すものです。酸化剤を加えて水中の有機物と反応(酸化)させた時に消費する酸化剤の量に対応する酸素量を濃度で表した値をいいます。	58
PFOS・PFOA	PFOSはペルフルオロオクタンスルホン酸(PerFluoroOctaneSulfonicacid)、PFOAはペルフルオロオクタン酸(PerFluoroOctanoicAcid)の略称で、どちらも有機フッ素化合物の一種です。全国で水道水の原水から検出される事例があったため、令和2年に水質基準の補完項目である要検討項目から水質管理目標設定項目となりました。	43



柏市上下水道局

〒277-0025 千葉県柏市千代田1丁目2番32号
Tel:04-7166-2191

